

fure-fure





各学年の大学生生活

■1回生■



1回生は、後期に入り大学での学び方を各自で工夫しながら、日々の講義や演習を通して看護について学んでいます。写真は、生活援助論での洗髪に関する演習の様子です。学生間で、看護師役、患者役を体験し、安全・安楽な看護技術について試行錯誤しながら取り組みました。「患者さんの体位を考えて、もう少し背中を倒したほうが楽になりそう」「患者さんに一つ一つ事前に説明することが、患者さんの安心につながる」など、講義で学んだ内容を活かして、意見交換をしたりレポートにまとめたりしながら学びを深めています。

11月にはインドネシアのガジャマダ大学看護学科の学生さん8名が研修にこられ、学生間で楽しく交流する機会がありました（表紙写真参照）。国際的な交流を通して、幅広く様々な視点から看護について考える機会がもてました。

サークル活動やアルバイトと学業の両立に悩みながらも、それぞれに自分の目標に向けて頑張っています。

■2回生■



8月から9月にかけて、初めて入院患者さんを受け持たせていただく「看護基盤実習」がありました。緊張と不安のなかで始まった実習でしたが、講義や演習で学んだ知識を活用し、患者さんへのケアを考え実践することを通して、患者さんにとってのよりよいケアについて学びを深めることができました。10月以降は学内での講義や演習が続いていますが、主体的に取り組んでいる姿が見られます。また、12月20日には、看護学部のクリスマス会を開催しました。クリスマス委員が中心となって企画し、参加者が楽しい時間を過ごせるように2回生全員で主体的に準備や運営を行いました。当日は、それぞれの学年がスタンプを披露し、2回生は練習を重ねてきた手話と歌を披露しました。アットホームな雰囲気の中、学生や教員が親睦を図りながら楽しい時間を過ごすとともに、これから国家試験に向かう4回生に全員でエールを送りました。

■3回生■



3回生は、10月から領域実習に取り組んでいます。この実習では、急性期・慢性期・地域・母性・小児・精神看護の領域を県内の病院や施設、地域で、これまで学んできたことを活用しながら学習しています。写真は、領域実習のオリエンテーションの様子です。各領域の実習のなかで、患者さんや地域住民の方や専門職の方から学ばせていただき、看護を学ぶ者として、それぞれが自分の目標を持って頑張っています。また、卒業生を迎えての就職のガイダンスや国家試験対策の模擬試験では、自ら率先して声をかけあい運営に携わる様子が見られ、将来に向かい自分たちで一歩ずつ進む力強さも感じられました。それぞれの学生がこの1年でまた、たくましく成長しています。これからも自分たちらしく、夢に向かって進んでいかれることを願っています。

■4回生■



最後の臨地実習を終えた11月上旬、看護師・保健師・助産師国家試験に向けて、国家試験受験票の作成を行いました。書類を作成しながら、国家試験までの日数をカウントし、授業・看護研究の隙間時間をどのように勉強に費やすか、時間を無駄にしないために生活スタイルで改善できる点はないか、一人ひとりが考える機会になりました。

4回生は、定期的に国家試験模試を受験し、その結果に一喜一憂しつつ、なぜその問題を間違ったのか、知識が曖昧な部分を自己分析し、解説や参考書に戻り振り返り、繰り返し学びを積み重ねてきました。問題を解くなかで、苦手分野を克服し、4年間で培った知識・技術・科学的論理・倫理的判断を統合して国家試験に臨めるよう取り組んできました。

このfure-fureが届く頃には、国家試験の受験を終え、合格発表を待ちながら、学生たちは社会人・専門職者として羽ばたく準備をしている頃と思います。それぞれの夢の実現に向け、最後まで学生とともに歩んで参りたいと思います。



副学長 五百藏 高浩 先生

看護学部の学生のみなさんこんにちは。2016年度から国際交流センター長、2017年度から副学長を務めている五百藏高浩と申します。赴任した年は1993年です。専門の研究分野は音韻論という分野で、ことばとしての音声がどのような法則によってとりまとめられるのか、また、それはどのように変化するのか、何が原因で変化するのかなどを見ていく分野です。所属は文化学部ですが、池キャンパスでの執務が多いので、会ったら声をかけてください。

情報通信網や交通網は絶え間なく発達し続ける今日、機器のサイズはどんどん小さく薄型になり、デジタルネイティブと呼ばれる皆さんはその移り変わりを難なく乗り越えているように思います。皆さんの持っている能力や知識は明らかに上の世代のそれらとは異なっているでしょう。情報機器の扱いやコンテンツを生み出す能力だけでなく、行動範囲という点でも個人のレベルで様々な境界を越えて活動することがふつうに見られることとなりつつあります。

日本の人口は減り続けています。他方、世界の人口は爆発的に増加しており、食糧難に喘ぐ人々もいます。地域社会の存続が難しいほど人口が減ってしまって生活の質を維持できない状況が生まれている地域がある一方で、内戦が続き学校や医療が貧弱で教育が受けられない人々が住んでいる地域が世界にはあります。私たちが「地域の課題」と呼んでいるものは、実は世界的な文脈で考えないと解決できないものなのかもしれません。世界を見渡せば他の地域でも見られるものかもしれないし、問題の根源は予想もつかなかったところ由来していることもあるかもしれません。また、今直面している課題や最新であると思われる知見がよく見れば過去の人々が既に経験したり記録していることの繰り返しや焼き直しであることもよくあることです。過去に学びつつ世界を見渡しながら、タテとヨコの関係で物事を見ていくことが大事だなと思います。

国際交流センターでは、国際的な文脈の中で物事を体験し考えていけるヨコの学びの機会を増やすことに取り組んでいます。海外の大学との協力・連携協定を結ぶこともその一つです。隗より始めよという言葉があります。身近なところから世界との繋がりづくりを試みてみましょう。



高知県・安徽省友好提携25周年記念青少年交流事業への派遣

高知県・安徽省友好提携25周年を記念して事業が開催されました。高知県からは、大学・行政等の訪問団が派遣され、看護学部の1回生二名が、高知県の大学生代表として、安徽省人民政府や人民代表会と交流を深めました。現地では、記念レセプション、県内3大学と安徽大学との交流事業、現地企業の視察などに参加し、高知県と安徽省の交流をさらに広げる機会になりました。

【参加した1回生曾木さん、廣瀬さんの感想】

私たちが参加しようと思った動機は、「海外に行くことで狭い視野を広げたい」、「県の大学生代表として訪問することで、旅行だけでは味わうことのない経験をしたり、海外の大学生に向けてプレゼンテーションを行うことで自分自身のスキルアップにつなげたい」と思ったからです。

中国は、想像よりも都市化が進んでいる部分と、昔からの文化も残っている地域があり、同じ国内でも地域ごとに、文化や風景、食も全く違っていました。一方で、街中で見かける漢字や箸、茶の文化などは、日本と雰囲気似た面があり、親近感も持ちました。学生の方々は、流暢な日本語で話かけてくださり、日本の文化にとっても関心を持ってくださっていました。刺激をたくさん受け、自分たちも勉強せねばと意欲が高まりました。また、高知県人会の方々の懇親会では、中国を拠点に様々な分野で活躍されているお話を伺い、私たちが考えているよりも世界はもっと広く、将来の可能性は無限に広がっていることに気づかされました。

後悔のない人生を送るためにも、今大学で学んでいる看護の分野だけではなく、様々な新しいことに目を向け、興味のあることに積極的に挑戦していきたいと思います。これからも海外に対する理解を深め、高知県と安徽省との友好関係はもちろんのこと、今回築き上げた学生同士のつながりも途絶えさせることなく、この先の日中の友好関係が続いていくことを願ってまいります。





■ 専門看護師の活動を紹介する教育

1回生を対象にオリエンテーション講義「看護学の誘い」を行っています。11月に開催した第3回では、大学院など看護専門教育・高等教育を視野に入れて、自分の将来を考えることができるよう、「看護学を学ぶにあたって-大学院・CNSについて-」をテーマに2名の教員による講義を行ないました。今回は慢性看護学領域の教員で慢性疾患看護専門看護師としても活動されている高樽先生の講義内容の一部をご紹介します。



[専門看護師を目指した理由について]

15年程前、教員をしていた際に同僚の先生から専門看護師の存在を教えてくださいました。その当時大学病院で勤務していた私は、慢性疾患の経過とともに身体や、周囲との関係・役割の変化といった喪失を繰り返しながら死を迎える患者さんに、何もできない自分の無力さを感じていました。患者さんのために何かできないか、という思いから自身のスキルアップの必要性を感じ進学を決意しました。

[専門看護師として活動して]

慢性疾患を抱える患者さんと、患者さんをケアするスタッフの支援や、看護外来・院内外チーム医療の設立などに携わってきました。多くの患者さん、医療スタッフと出会えたことは私の財産だと思っています。専門看護師として活動するなかで悩むこともありましたが、これまで関わらせていただいた方々との相互作用を通して、多くのことを学び、自分自身の成長につながったと感じています。専門看護師として患者さんの人生に関われるということは大きな喜びとやり甲斐があると実感しています。

専門看護師とは

専門看護師制度は、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを提供し、保健医療福祉の発展と看護学の向上をはかることを目的に、1994年に発足されました。認定には、専門看護師教育課程の認定を受けた大学院修士課程において所定の単位を取得し、規定の実務経験を経て、日本看護協会が実施する認定審査に合格することが必要です。本学大学院では8専門領域の専門看護師を育成するコースを開設しており、これまでに100名を越す専門看護師を輩出しています。

■ 学生の活動【箏曲部】

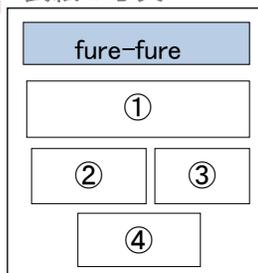
私たちは、入学式や卒業式などの式典や地域のお祭り、高知城花回廊での演奏を行い、日本の古き良き文化を多くの方と一緒に楽しむことをモットーに活動しています。部員は、初心者から経験者まで多様で、お互いに教え合いながら、週に2回練習しています。これまでの先輩方から受け継いできた技術と、高校時代に経験を積んできた部員による知識や経験をもとに様々な曲の演奏に取り組み、初心者でも楽しく参加しています。演奏曲は、箏曲からポップスまで幅広く、希望をいただいたり、自分たちで弾きたいと思った曲を演奏しています。ポップスでは弾きたい曲は、五線譜の楽譜から箏用書き下ろし演奏しています。また、年に一度、定期演奏会を開催しています。袴を履き、赤い毛氈の上で各学年の小曲から全員で挑む大曲などを演奏し、来場者の方々に邦楽の奥深さと和の雰囲気味わっていただいています。



次回の定期演奏会は、2020年4月18日に高知市かるぽーと小ホールで開催しますので、ぜひお越しください♪
3回生藤本実乃梨



表紙の写真



- ① クリスマス会
 - ② 学長賞受賞:フットサルサークル(ソフィア)
 - ③ 赤ちゃん同窓会
 - ④ 国際交流
- 1回生とガジャマダ大学の学生-

[ニュースレターの名前の意味]fure-fure 学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。 fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp